

2015年9月下旬配本予定

ISBN978-4-907210-35-9 C0070 A5判並製128ページ 本体450円

REAR no.35

特集 主題としての〈こども〉

未来を見通しにくい現代において、あたらしい家族、とりわけ〈こども〉をもつかどうかは、一人一家庭の人生儀礼にとどまらず、人間としての営みや社会的責任に直面する非常に大きな問題を孕んでいます。

今特集では、未来へ向かって生きていく存在である〈こども〉に注目しました。

芸術の主題は風景や宗教、人間、愛、平和、日常など多岐に渡ります。その中で〈こども〉の姿形や、彼ら自身の表現は、わたしたちにどんな世界をみせてくれるのでしょうか。

近年では、夏休みともなれば〈こども〉を対象とした展覧会やワークショップが各地で開催され、積極的に〈こども〉を主題に位置づけて社会のあり方を問うアーティストや企画者の態度にも関心が寄せられます。

〈こども〉を通して見る世界とは？

私たちに今を見据えることを促し、さらには未来への希望をつないでくれるはずです。



contents

■特集【主題としての〈こども〉】

こどもはイノセントなわけじゃない	インタビュー: 玖保キリコ	〈深読み〉をめぐる—考察—PARASOPHIA—京都国際現代芸術祭2015	
完全体の諸相—マンガにはこどもしかいない	高橋明彦		山本さつき
人類学からみた「こども」という主題が芸術に投げかけるもの	茶谷 薫	伊藤高志の仕事—メディアと「不気味さ」—	森下明彦
子育てと美術—mhRによる自作自演インタビュー—	村田早苗	2つの回帰、そしてその先へ 『石田尚志 渦巻く光』展	塚田 優
インファンティア、あるいはイメージと言葉	沢山 遼	山城大督《HUMAN EMOTIONS》について—どんなに近くにあっても	
未来へ向かって生きていく存在		遠い遥けさを思わせる複数形の現象—	石田大祐
～こどもを通して見る「世界」を巡って～	対談: 荒木夏実×光田由里	【レビュー】	
写真における子どもの表象	楠本亜紀	若林奮 飛葉と振動／若林奮展	北谷正雄
「こどもの城」から—アートワークショップとアーティスト—	前田ちま子	地点『かもめ』を観て 地点『かもめ』	海上宏美
美術館における未就学児のための鑑賞教育プログラムの研究	稲垣立男	京都フィルハーモニー室内合奏団 第198回定期公演	
美術館における子どもの領分	鈴村麻里子	「言霊に音霊会ひし桜かな」	水野みか子
おとなもこどもも考えた! 「ここはだれの場所?」をめぐって	増田千恵&堀江達也	高松次郎 制作の軌跡	大澤慶久
美学的主題としてのこども—触育と触話(触れかきせ)	秋庭史典	土に生きる—体当たり焼けもの人生	
「アートがわかる」大人になるために	インタビュー: 山本高之	「鯉江良二展 土に還る それ以前・それ以後」	外山杲見
【批評】		生誕—10年 片岡球子展	土生和彦
ライブ化が進むビエンナーレ		マームとジプシー「cocoon 憧れも、初恋も、爆撃も、死も。」	井上昇治
—ヴェネツィア・ビエンナーレ第56回国際美術展を中心に	藤川 哲	伊東宣明「アート」	天野一夫
札幌国際芸術祭2014は国際展としての意義を果たしたか。	穂積利明	森北 伸 展覧「In My Life」	石崎 尚

▶ご注文はツバメ出版流通まで **FAX: 03-3721-1922** TEL:03-6715-6121 MAIL: info@tsubamebook.com <http://tsubamebook.com>

書店名 (番線印)	リア制作室		http://2525kiyo.cocolog-nifty.com/
	返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通: 川人		
	冊	新刊 REAR no.35「主題としての〈こども〉」	
	ISBN978-4-907210-35-9 C0070 A5判並製132ページ 本体450円+税		
冊	no.36以降定期『REAR』		
冊	バックナンバー 本体各450円		
冊	REAR no.34「特集 土のしごと」ISBN978-4-907210-34-2 C0070		
冊	REAR no.33「特集 弥衛さん」ISBN978-4-907210-33-5 C0070		
ご担当:	様		